

Twitterで、動画ツイートとして投稿する宣伝用ボイス。

そのため、頭の空白は他のトラックより短く、一秒程度にする。

シチュエーションとしては、『01・夏休み、さびれた田舎、河原で出会う』からそのまま続き。

弥映の心理状態としては、すでに、主人公の事をかなり気に入っている。

まず、可愛く思っている。

弥映は、主人公の『いかにも真面目な優等生』という雰囲気なのに、実際は河原でアダルト雑誌に夢中だった。

という……隙だらけな感じ、欲望に負けている感じに、親近感と好感を抱いた。ほほえましくて、つい、からかいたくなっているのである。

それから、心から感謝もしている。

弥映としては、民宿を紹介・案内してくれただけで十分すぎるほどにありがたかった。
なのに、主人公は、自分のために買ったサンダルまでプレゼントしてくれたのである。
……これには、正直に言うと、少しドキッとしてしまった。

弥映が主人公と同年代の頃は、弥映はこんなにしつかりしていなかつた。
もちろん、こんなに親切でもなかつた氣がする。

だから素直に尊敬して憧れた。

だつて主人公は、あんなところを見られて、さぞばつが悪い事だらう。
それなのに、弥映の身を案じて、こんなにも大切に扱つてくれる。

さらに言えば、この警戒心の強そうな少女が、出会つたばかりの弥映を個人的に気に入つ
て、早速懐いてくれたり、ひいきをしてくれたりしたとは思い難い。

だから、誰にでもそういう対応をする、いい子なのだろう。

そんな人柄を、素敵だと思つたのだ。

つまり、弥映の心には今、主人公を

『年下扱いしてからかいたい、可愛がりたい』気持ちと、

『年齢差は関係なく、親切で素敵な人だ』と思う気持ちが同居している。

結果、なんだか負けたくないくて、前者の傾向が強まる。年上の女性らしく、主人公をちょっとドキドキさせてやりたくなっている。

※「(笑)」は演技指示として、文字数に含めません。※

●中央

〔少しゆっくり目に。『うつろぎ』と『やえ』のあいだに短めの間を置く〕

空樹 弥映(うつろぎ やえ)

〈主人公〉

「なんだか、本名っぽくない名前ですね。本のキャラみたいな名前」

対する主人公は、本当は『芸名や、ファイクションのキャラクターの名前みたいに、きれいな名前ですね』と言いたい。

だが、彷彿を警戒するあまり、素直になれない。

出会いの方も出会いの方だし、つい偽名を疑ってしまう。

でも、弥映は気にしていない。

そして、主人公は気づいていない。

普段鉄壁の『優等生リアクション』をする自分が、出会ったばかりの弥映に、こんな失礼な発言をする事。

それは、もちろん、いい事ではない。

だが……それは彼女の事を、すでにとても気になつていて証拠である事に。

●中央

〔言われ慣れている。なので普通に笑つて答える〕

偽名っぽい？

〔言いながら笑つて〕

なんで（笑）。あたしそんなに怪しい感じ？

〔言われ慣れている。なので普通に笑つて答える〕

本名だよ。でもたまに言われる。

〔少し間をあけてから。話題を変える〕

仕事。は。

〔少し間をあけてから。しつと言う〕

なんもしない。

【少しあとで】

無職？

【少し間をあけてから】

だからここに来た。

【少し間をあけてから】

一回来てみたかったんだ。

こういう縁で一杯の場所。

【一呼吸あけてから。気を取り直すように】

それじゃあしばらくお世話になります。

助けてくれてありがとう。

お礼に……

弥映、身体を近づけて、主人公の左耳に顔を寄せてささやく。

●●左 ささやき 至近距離 ※マークのセリフまでささやく

【少し間をあけてから、からかうようにささやく。

冗談なのか、本気なのかわからない口調で】

あの本みたいなエロい事してみる?」※

〈主人公〉

「ちよつと!」

弥映、元の距離感に戻つて、真つ赤になつている主人公を見て楽しそうに笑う。

●中央

「元の位置に戻つて小さく笑う。主人公の反応が面白い】

あはつ♥ 本気とした?】

弥映、距離感はこのままでささやく。

一見『冗談だよ』と続きそうなところを、そうはしない。

ひとつ前のセリフとは、明らかに声音をえて、ドキッとさせる。

●●中央 ささやき ※マークのセリフまでささやく

【距離は変えない『中央』のままささやく。

少し間をあけてから。先ほどまでと声音をえてドキつとさせる】

いいよ。しても」※

「ここでフェードアウトして終了。